鹿本農業高等学校　令和元年度（２０１９年度）学校評価計画表

１ 学校教育目標

「挑戦！輝く未来に～元気と勇気と根気～」～新たな価値を創造するために！一歩前に～
１　キャリア教育に基づく教育活動の実践　２　豊かな人権感覚に基づく教育活動の実践
３　授業改革に基づく教育活動の実践　４　業務改革に基づく働き方改革の実践

２ 本年度の重点目標

「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育行動指標を踏まえながら、生徒の自己肯定感を高める指導を実践して「生きる力」の育成を目指す。
１ 安全安心な学校づくり　２ 学習指導の充実
３ キャリア教育の充実　４ 基本的生活習慣の確立
全員で知恵を出し合い ～行きたい学校、学びたい学校、卒業してよかった学校～ 目指して

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策
学校経営	地域社会の期待と信頼を高める学校づくり	特色ある教育活動の実践及び情報発信	農業高校の役割と使命をわかりやすく発信し、募集定員の充足率80%以上を目標とする。	保護者、生徒を加えた生徒募集委員会を編成して学校PR方法等を検討し、効果的な学校説明や交流活動を実践する。
	校訓理解に基づく教育活動の実践	校訓を柱とした主体的・対話的で深い学びの教育活動の充実	本県の教育行動指標を踏まえた教育活動を実践し、生徒の自己肯定感を高め、学校評価で90%以上の満足度を目指す。	生徒の教育的ニーズや課題の把握に努め組織的に創意工夫を活かし、個に応じた適切な教育活動を実践する。
	働き方改革の実践	業務改善に基づく効率的・組織的な教育活動の実践	情報共有のために校務支援システムを活用して会議及び文書作成時間等を縮減し時間の有効活用等業務の効率化につなげる。	毎週水曜日は各会議日に設定し、情報共有による業務の組織化を図る。また、校務支援システムに各分掌のデータを全て保存し全職員の利用率を高め業務の効率化を図る。
学力向上	基礎学力の向上	学習意欲の喚起と家庭学習の定着	朝自習と朝読書による基礎学習に対する満足度を７０%以上にする。	各教科で提出物と添削指導を実施し、朝自習と朝読書により基礎基本事項の定着を図る。
		学習支援体制の充実	学業不適応による転学者・中退者数を０人にする。	「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育を念頭に、分かる授業を心がける。 毎月の教科会・学科会において評価方法を検討し、生徒の向学心を高める。
	授業力の向上	研究授業・公開授業の充実	研究授業・公開授業(他校も含む)では、自分の教科と他教科を各１回以上見学する自己評価による授業評価を実施する。	毎月１回研究授業を行い、１１月に公開授業週間を設ける。生徒による授業評価を実施し、客観的資料として活用する。

	読書活動の推進	朝の１０分間読書や集団読書等の活動推進	１人あたり月１．５冊以上の本を読む。	情報図書部が中心となり出前図書館を行うなど啓発を行う。授業で積極的に図書館を利用し、生徒が書物に触れる機会を増やす。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実	場面に応じて発揮できる基礎力、協調性、応援力などの汎用的能力の育成	効果的な外部講師講話の実施、進学説明会への参加を通し企業理解や進路理解を進める。学期１回の講話や進路情報の提供により自己に適した職業選択を目指す	日常活動で職業観や勤労観を高め、インターンシップや校外実習で実践力を付け働く意義や楽しさを実感する。校内進路フェアを実施し、職業選択につなげる。
	卒業後の進路に活かす活動実践	将来を見通した進路設計と職業選択	年間３回以上の面談と職業理解や情報収集の機会を増やし１００％の内定率にする。 職場体験、見学の機会を増やし、早期離職を防止する。	ブライト企業のＨＰの活用、企業人事担当による講話、外部人材の面接練習などを多用し、職業理解を進める。 進路の手引きの活用やオープンキャンパス等への参加を推奨する。
生徒指導	生活指導の徹底	基本的生活習慣の確立	自ら率先して挨拶ができる生徒の育成。時間を守り、無断遅刻・欠席をさせない	朝の声かけ・日常指導で職員が積極的に挨拶の見本を示す。遅刻指導の実施と欠席・遅刻連絡の徹底
		制服の正しい着こなしの徹底	整容指導を再指導までで完結し、部長指導対象者を出さない	全職員で指導を行い日常から正しい制服の着こなしを促す。
	適応指導の充実	中途退学者の減少	中途退学者の割合を1.6%（全国平均）以下にする。 最終目標：中退０人	入学前からの生徒情報収集・病院等外部との繋ぎが必要な生徒への支援を行う。
	組織的指導の推進	生徒理解と職員間の共通認識を図る	生徒指導を全職員で取り組み、諸職員による指導差をなくす	生徒指導の情報共有を図り、全職員による指導体制を構築する。
人権教育の推進	人権教育の充実	部落差別解消やいじめ防止に向けた取組を行い差別、いじめを許さない態度の育成	人権教育ＨＲ活動後の意識調査で、全ての生徒が差別やいじめは絶対いけないことだと認識する。	学期１回の人権ＨＲ活動や講話の実施により生徒及び職員の人権意識を高める。人権教育推進委員会および職員研修の充実。
	特別支援教育の推進	インクルーシブ教育（授業のUD化と合理的配慮の促進）	支援の必要な生徒が教室で授業を受けやすい教室整備と授業のUD化を進める。	教室環境の整備（整理整頓、週計画の見通しなど）や授業の工夫改善（授業のUD化やTT授業）。ＳＣＳＳＷと協力したケース会議の実施。
いじめの防止等	命を大切にする心を育む指導	生命尊重の意識と自尊感情の確立	すべての生徒が自他の生命を尊重し、認め合う雰囲気作り	家庭訪問や面談の充実。鹿農ｄａｙでの声かけによる全職員での雰囲気作り。心の絆を深めるプログラム実施。

	他者の心情を理解する人間性を育む	いじめのない人間関係の構築と学校づくり	いじめ早期発見と全てのいじめ事案解決に努める。SNSのトラブル防止に努める。	毎学期１回「心のアンケート」調査といじめ防止対策委員会の実施による早期発見、早期対応。
地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど）	学校運営協議会の推進	学校運営協議会における連携体制の確立及び職員・生徒の防災能力の向上	防災マニュアルを活用した防災・防火訓練の実施。地域と連携した防災に関する環境整備に努める。	熊本地震を想定したブラインド型の防火・防災訓練を実施し県下一斉シェイクアウト訓練と重ねて災害発生時の職員・生徒の役割の確認を行う。また、訓練の中で生じた問題を抽出した新防火マニュアルの作成を行う。
	地域連携と広報活動の推進	地域における教育資源の活用と交流活動の推進	地域の文化や歴史を地域の交流の中で学ぶ。また、小・中学校との交流活動や生産物販売をとおした交流活動の推進。	各教科における視察研修や保育園を含めた小・中学校との交流学習会の実施。農高プラザ年４回、県下各種イベント等へ積極的に参加する
		広報活動の充実	生徒・職員・ＰＴＡ全員が協力して、本校広報活動に取り組む。	ホームページの更新に全職員で取り組む学校紹介等へ生徒・ＰＴＡを参加させた広報活動を行う。
専門教育（農務）	農業教育の充実	特色ある農業教育の実践	全学科でＧＡＰ教育や交流学習を実践する。	教科担当者会議を行い、専門部全体で進捗状況や生徒の理解度を確認しながら学習効果を高める。
	就農教育の充実	農業自営者・農業従事者の育成	就農を含む農業関連の就職・進学等の進路実現100%に繋げる。	各学科で農業関連の進路指導体制を充実させ、農業自営者育成を図る。
	学校農業クラブの活性化	農業鑑定競技県大会の運営・九州大会及び全国大会出場	農業鑑定競技県大会のスムーズな運営と県大会、九州大会、全国大会での成績向上並びにクラブ員としての活動意識を高める。	生徒が自発的且つ主体的に活動できる指導体制を整え、クラブ組織を強化する。校内発表会の審査基準や審査方法などを見直し、発表内容の充実やクラブ活動の活性化を図る。
保健教育（保健）	自分の健康や生活習慣に対する意識の向上	定期健康診断後の事後措置の徹底	定期健康診断結果、受診が必要な生徒は歯科６５名（３３%）視力５７名（２９%）であった。昨年度の受診率歯科２５%・視力４３%を上回ることを目指す。	受診が必要な生徒の状況を随時把握するとともに、未受診理由を把握し、個別に対応する。専門家による講演会を企画し卒業後を見据えた健康の自己管理意識の向上を図る。